

# フロンティアハウス 横浜で木造戸建て 投資家向け賃貸併用 住宅ローンも利用可

収益物件の開発を手掛けるフロンティアハウス（神奈川県横浜、佐藤勝彦社長）はこのほど、横浜市保土ヶ谷区で賃貸併用型戸建て住宅「アパルトレジデンス西谷」を竣工した。

同シリーズは「年収500万円台から購入可能な、マイホームと不動産投資のハイブリッド商品」（同社）として、年間10棟前後を供給している賃貸併用商品。土地取得から企画、開発、賃貸住戸のリビングまで、原則として同社がワンストップで手掛ける。自己居住部分の面積を50%以上で設計することにより、比

較的金利の低い住宅ローンを利用可能としている点が大きな特徴で、賃貸収入と併せてローン返済額を抑え、リスクの低減を図っている。

同物件は相鉄線西谷駅から徒歩4分の立地で、土地面積は約131㎡、建物は木造2階建て。自己居住用の「オーナールーム」2LDKが1戸と、賃貸用住戸の1Kが2戸の全3戸構成。22年の建築中に販売契約済みで、23年1月末の完成をもって引き渡しを終えた。物件価格は非公表ながら、同シリーズは「物件価格を5000万円前後に抑えているため、若年層でも低リスク低コストで不動産投資ができる」（同社）と説明する。

加えて今後は、価格帯などの選択肢も拡大していく方針だ。同社の広報担当者は、「パワーカップルなどの顧客からは、より好立地（で高額）な案件への要望もある」と語った。